

はじめに

「会社の経営は、資金繰りに始まって、資金繰りに終わる」

この言葉が、この本を書くことになった動機づけです。

今現在、我が国には約四〇〇万社を超える法人があり、その内の95%以上が中小零細企業といわれています。

そして、実にその七割程度が赤字会社とも言われています。

当然のように、赤字の会社数だけ、資金繰りに苦しむ会社が存在していることになります。

よく会社の経営資源は、人・物・金といわれますが、この中で、中小零細企業の経営者は、特に、お金の問題で頭を悩ますことが多いのではないのでしょうか。

会社という生き物は、とても不可解な生き物で、どんなに大きな赤字を出していたり、債務超過の状態が続いていたとしても絶対に潰れることはありません。

そうです。

会社は資金が底をついたときに潰れるものなのです。

このことは裏を返せば、会社というものは、どんなに大きな黒字を出していたとしても、潰れるときは、あっさりと潰れるものなのです（これを黒字倒産といいます）。

「先だつものは金」とよく言われますが、お金がなければ何事も事を始めることはできません。それを、「お金なんてなんとかなるさ」とばかりに、資金繰りを軽視していると、いつかは、「資金ショート」を起こして、たちまち会社は潰れてしまうことになるでしょう。

このように大変悩ましくもあり難解な資金繰りについて、適切な解答を与えてくれる教育機関や書物などがないのが現状です。

また、あつたとしても、終始、資金繰り表の作り方教室であつたり、銀行からお金を借りるテクニクの話ばかりで、これでは、対症療法であつて、根本的な資金繰り改善策にはなりません。

私は仕事柄、多くの会社の資金繰りに接する機会がありますが、ここでの気つきは、会社の資金繰り、つまり、お金の稼ぎ方や使い方については、社長の物の考え方（性格）と完全にリンクしている、というものでした。

特に中小零細企業の場合は、社長の考え方が100%経営に反映されるわけですから、儲かったときには儲かったように、逆に、苦しいときには苦しいなりに、いかにして、「お金のコントロール」感情の「コントロール」をしていくかが、将来の会社の生死を分ける、と言つても過言ではないことに気づいたのです。

そこで本書では、資金繰りに一生懸命取り組んでいるが思うような結果が出せない、

- ・ 中小零細企業の社長または社長予備軍の方
- ・ 社長を支えるビジネスパーソンの方
- ・ 資金繰りを本格的に勉強したいと思っている方

を対象に書いたものです。

資金繰り改善にあたって、どんなに強い抵抗にあつたとしても、「絶対にやり抜く」といった堅固な信念さえ持っていれば、安易な借人による解決策や極秘テクニクなどに頼らなくても必ずうまくいくはずです。よって本書では、当たり前のことを当たり前のように実行さえすれば、必ず改善の道が開ける簡易なものだけを抽出し、書くことにしました。

また、本書は、社長の考え方一つで、明日からでも実行できるものばかりですから、どうか、素直な気持ちになつて、一つひとつ地道に階段を上るような感じで実行してみてください。

その暁あかつきには、必ず、素晴らしい資金繰りの会社になっていることをお約束いたします。